

マボヤ人工種苗生産試験について

ね ら い：近年、養殖用種苗不足の事態が発生しており、県内産種苗の供給が求められていることから、人工種苗生産技術の確立を図る。

成果の特徴：① 「流水・自然日長下」で15個体を飼育、観察し、水温約10℃に達した時に産卵のピークがあった。（図1）

② 産卵誘発（光・温度処理）を行ない、特定日に多くの受精卵を確実に得ることができた。（図2）

③ 卵・幼生飼育時における水温及び換水方法の違いによる採苗率を調べた。（図3）

成果の活用面：安定した種苗供給体制を整備し、計画的な養殖生産を図る。

[具体的データ]

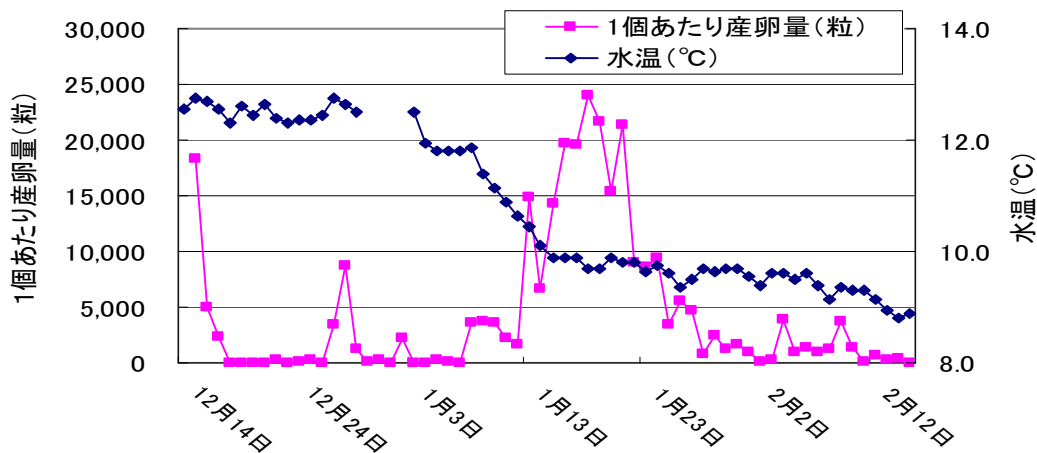


図1（流水・自然日長下）における産卵量と水温



図2 産卵誘発試験の流れ

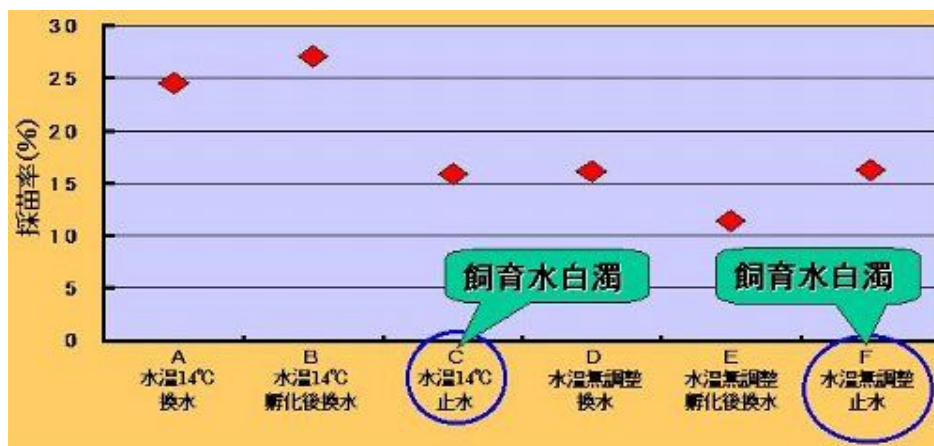


図3 各試験区における採苗率

通気した 100l 水槽に受精卵を 45,500 粒ずつ収容した。飼育時水温（14℃・無調整）及び換水方法（換水・孵化後換水・止水）の違いによる採苗率を推定した。

担当者	増養殖部 専門研究員 武田啓一 Tel0193-26-7917 FAX0193-26-7920
連絡先	〒026-0001 岩手県釜石市大字平田第3地割75番3号
	ホームページ http://www.pref.iwate.jp/~hp5507/